

## 出題の意図 (R8 法学部・小論文)

### 大問1

大問1は、法学部で学ぶ法学という学問の本質を述べた文章を題材とするが、法学の予備知識を求めるものではなく、問題文を論理的に読み解く能力を問うものである。

問1は、問題文の前半で述べられている法学と常識の関係を的確にまとめることを求めるものである。

問2は、問題文の後半で、法学は無価値であるとする議論(キルヒマンによるもの)に反論する形で法学は決して無価値ではないとする議論(筆者の立場)が示されていることから、これを的確にまとめることを期待したものである。

### 大問2

大問2は、複雑に問題の生起する社会にあって、諸学問分野を束ねる大学にて伝統的なあるいは新しい専門に身を投じて知的活動に取り組む、その足場に常に横たわる思考を試すものである。

問1は、社会に関わる問題を扱う学際的な試みに生じる問題として課題文が示す典型的な一例について、受験生が正しく理解しまとめることができるかを問うものである。

問2は、課題文が例解する、学術的・政治的論争や学問的方法論の存在意義を考えるための論理的な前提構造とその認識が強調されるべき必要性とを、受験生が理解し的確に説明できるかを問うものである。